

2019年度採択団体向けPO研修

「中長期を見据えた休眠預金の事業
を活かした社会課題の解決」

2020年11月26日

(公財)日本国際交流センター

執行理事 毛受敏浩

TOSHIHIRO MENJU

休眠預金の1年間を振り返って

1. 「外国ルーツ青少年」に光が当たり始めた

- ・日本では外国人は一時的な滞在者の認識による政策
- ・外国ルーツ青少年の各種の統計なくNPOも稀少
- ・転機 JANPIA事業（住友商事参画）、日立財団「外国につながる高校生たちの活躍する力を拓く」シンポetc.

2. 外国ルーツ青少年の課題を掘り下げられた

- ・外国人ルーツ青少年の課題の連鎖・・日本語、教育、労働
- ・外国ルーツ青少年の可能性

解決促進のために連携して休眠預金でできること

1. 外国ルーツ青少年の存在の社会的アピール

- ・外国人材積極的活用を謳う経済団体も留学生のみ念頭
- ・JCIEのアプローチ・・・政府、経済界、自治体、メディア
→抜けてているのは社会福祉関連団体、青年層

2. NPOの基盤強化促進としての「休眠預金活用事業」

- ・脆弱な日本のNPOセクター・・弱い寄付文化、人件費が
でない日本の助成財団(プロの人材が育たない)
「休眠預金活用事業」
→プロのNPOを育成する
→NPOへの支援のあり方のパラダイムシフトにつながる?